



特定非営利活動法人 ACE

2007 年度 活動・決算報告

2008 年 3 月

1. 特定非営利活動に係る事業報告

< 全体総括 >

- ・ 4つの各事業において新たな活動を開始、展開することができた。外務省委嘱 NGO 専門調査員を含め、常勤スタッフが3名になったこと、インターンを2名に増やしたことなどにより実施体制が強化されたことが大きい。
- ・ 特に政策提言事業の企業を対象としたセミナーや調査の実施や、CSR、アドボカシーをテーマとした講師派遣、国際協力事業における基盤強化、インド「子どもにやさしい村」プロジェクトの管理運営体制の強化などが成果としてあげられる。
- ・ また、アドボカシー戦略を作成したことにより活動を戦略的に選択、実施することができるようになった。これが助成金申請など資金調達活動の効率化にもつながっている。
- ・ 2007年度はACEが活動をはじめから10周年の節目の年であった。記念イベントと本の出版を通じて、団体活動と児童労働に関する広報を大々的に行う計画であったが、十分に達成できなかったため、2008年度にも継続して行う。
- ・ 人員の増加に伴い、他団体と共有していた事務所が手狭になったため12月下旬に事務所を移転した。

啓発事業

主な成果として、「チョコレートと児童労働」の啓発用教材を作成する「チョコレートプロジェクト」を開始。2008年度の完成と普及をめざしている。チャリティフットサル大会は自主開催に加え、フットサル場とのコラボレーションによる大会を14回開催することができ、国際協力事業の資金の拡大につながった。インドへのスタディツアーも参加者が大幅に増え、参加者のその後の活動への参加につながっている。その他詳細は以下の通り(講師派遣、学習会、イベント等実績については別紙参照)。

1) 講師派遣

- ・ 回数、参加者数とも昨年の実績を上回ることができた。CSR やアドボカシーをテーマとした講師の依頼も増え、この部分は政策提言事業の一部として実施した。
- ・ 新規教材開発の中で、中学生をターゲットにした「チョコレートと児童労働」をテーマとしたワークショップを作成中(2008年5月完成予定)。完成次第、教材とあわせて普及していく。

2) 教材の開発・普及

- ・ 「チョコレートと児童労働」啓発用教材パッケージを作成する「チョコレートプロジェクト」を6月から開始。スタッフ、ボランティアによるミーティ

ング(7回)を重ねてきた。2008年6月までにワークショップ用教材、DVD、マニュアルをパッケージにして完成させる予定(中央ろうきん助成事業)。

- ・ 主に企業からの写真使用の申し込みが増えたため、貸出写真リストや貸出フォームを整備し、効率的に対応する体制を整えた。

3) 資料室・ライブラリの運営

- ・ 資料の閲覧以上に、大学生の卒論執筆や研究のための質問、インタビューの要請が増えた。ウェブ上の論文ライブラリの利用と学生会員の入会も少し増えた。
- ・ 大学生からの質問、インタビューへの対応としては、「よくある質問」にまとめウェブに掲載していくほか、効率的に対応するための体制作りが課題。また論文ネットライブラリへの新しい論文の追加や資料室の整理・更新も今後の課題となっている。

4) 学習会、講演会の開催

- ・ 国際子ども権利センターとの共催で行った「カンボジアにおける児童労働」(1月)、総会にあわせて実施した「チョコレートと児童労働」(3月)のほか、6月の「児童労働反対世界デ・キ

キャンペーン」の一環として、他団体との共催での学習会、ワークショップを2回実施した。

- ・ 今後は、計画的に実施し、支援者や会員の獲得につなげる工夫をすることが課題である。

5) チャリティフットサル大会の開催

- ・ 独自主催の大会は4回目を迎えることができた。昨年より12チーム参加が増え、355,149円の収益を得ることができた(昨年度より約12万円増)
- ・ JFC スポーツバンガード株式会社との新たなコラボレーションにより、春と秋に合計13のフットサル場で大会を開き、116チームの参加を得た。参加費の一部より、春大会147,000円と秋大会268,000円を寄付していただいた(秋大会分は2008年度収入の見込み)。

6) キャンペーンの実施

- ・ キャンペーン実行委員会のメンバーとして4月に「世界中の子どもに教育をキャンペーン」を実施。等身大のすごろくを作成し、JICA地球ひろばで展示を行ったほか、リレートークとしてワークショップを実施した。その後すごろくはACEが窓口となって貸し出しをしている。
- ・ 児童労働ネットワークの一員として、「児童労働反対世界デー・キャンペーン」に参加。大阪でセミナーとウォークを、東京でワークショップとNGOの懇談会(キャンペーンメインイベントのアセファ・ベケレ氏を囲んで)、ウォークを実施した。

7) 各種イベントへの出展・参加・協力

- ・ グローバルフェスタやNTT労働組合主催イベント等、年間を通じて8つのイベントに出展、参加し、児童労働の啓発およびACE活動の広報を行った。
- ・ イベントでの募金箱の設置や、ACE出版物、書籍、フェアトレードのグッズやコーヒーの販売などを通じてファンドレイズにも努めた。
- ・ 3月には、東京都千代田区の委託により、地球市民講座と写真パネル展(千代田区が毎年実施)を実施。写真展には、写真家の谷本美加さんや、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、国

際子ども権利センター、「働く子どもの遺産と伝説キャンペーン(OLAL)」などの協力を得た。

8) スタディツアーの実施

- ・ 「インドで子どもに会って考える旅」と題し、8/30(木)~9/7(金)の日程(7泊9日)でツアーを実施。インドのパートナー団体の子どものリハビリテーション施設と「子どもにやさしい村」プロジェクトを実施している村を訪問した。その他、日本大使館やILO、フェアトレード団体、現地NGOを訪問した。20代~60代まで幅広い層が15人参加し、会員、サポーター増にもつながった。4月と6月には事前説明会を行った。
- ・ 参加者は帰国後、国際協力事業の広報やイベント等に積極的に協力してくれている。報告会を、2008年度総会に合わせて3月に実施予定。

9) ウェブサイトの運営

- ・ ウェブボランティアの協力を得て、ほぼ毎週定期的にウェブの更新を行うことができた。
- ・ ウェブ上に問合せ・資料請求フォームを設けたことにより、資料請求や問合せが増え、会員やサポーター増につながっている。
- ・ 今後は利用者のユーザビリティの向上が課題。

10) メールマガジンの発行

- ・ 1月から12月まで24回(毎月2回)発行した。海外の児童労働ニュース、イベント広報、ボランティアの募集など、内容を充実し、定期的に発行することができた。また翻訳ボランティアの協力を得たり、ウェブサイトへのリンクを活用し、効率的に情報発信することができた。
- ・ 購読者が、独自配信が1,427人から2,066人に、まぐまぐが187人から371人に増加した。

11) メディアとの連携

- ・ イベントごとに単発でニュースリリースを送ってメディア関係者への情報提供に努めた。
- ・ 今後はニュースリリースの発行を増やすなど、メディアに向けた定期的な情報発信が課題。

政策提言事業

アドボカシー戦略に基づき、「児童労働を予防する市民と企業のあり方追求プロジェクト(通称:CSR プロジェクト)」を開始。企業関係者を対象としたセミナーや調査を実施した。また、政府への政策提言活動として 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム、貧困・開発ユニットの基礎教育・児童労働ワーキンググループを設立し、児童労働に関する提言を提言文書に盛り込むことができた。アドボカシー団体としての ACE の認知度が少しずつ高まっていることのひとつとして、アドボカシーや CSR に関する講演やパネリストの依頼が増えたことも 2007 年度の特徴であった。その他詳細は以下のとおり。

1) アドボカシー戦略の策定

- ・ ほっとけない世界のまずしさ、アドボカシー・スタートアップ・イニシアティブ(ASI)助成事業として 2006 年度より継続していた戦略の作成は、戦略文書を 3 月に完成させ終了した。その後戦略の概要はウェブに掲載した。また ASI 助成事業の報告会に岩附が出席し、事業の成果を発表した。

2) 企業と児童労働に関する調査、情報収集・提供

- ・ 東京都の「ゆめ応援ファンド」の助成を受け、児童労働を予防する市民と企業のあり方追求プロジェクト(通称:CSR プロジェクト)を開始。児童労働問題に取り組む企業に関する情報収集、ヒアリングや、ACE イベント参加者へのアンケート調査を行った。
- ・ 要請に応じて、CSR をテーマとした講師の派遣、企業のステークホルダーミーティングや座談会の出席、原稿の執筆などを行った。
- ・ ブリジストン・ファイヤーストーンのリベリアでの児童労働搾取問題について、米国 NGO、ILRF の協力を得て、ジャーナリストへの情報提供を行った。その結果、2008 年 1 月 27 日号の読売ウィークリーに記事が掲載された。

3) 児童労働予防・改善を目的とした CSR 促進のためのセミナー実施

- ・ 「CSR 調達と SA8000 セミナー」(7 月、CSO ネットワークとの共催)と「SA8000 社会監査研修」(9 月、CSO ネットワーク、SAI との協力)を実施。それぞれ、82 名、23 名の参加を得た。

「SA8000 社会監査研修」NGO 特別枠として、白木、岩附も参加し、研修修了資格を取得することができた。

4) 児童労働改善の成功事例紹介

- ・ 米国 NGO、Winrock International の児童労働プロジェクト担当ディレクター Vicki Walker 氏を招聘してセミナーを行う計画を立案。庭野平和財団へ助成金を申請し、必要経費の半額を調達することができた。セミナーの実施は 2008 年秋を予定。
- ・ あわせて、Winrock のプロジェクトでの成功事例を集めた Best Practice 集の翻訳も行う予定であるが、そのための資金がまだ調達できていない。

5) 日本政府の援助政策・施策への提言

- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムに参加し、基礎教育・児童労働ワーキンググループ(WG)を結成した。これにより、児童労働を日本の NGO からの提言の議題にあげることになった。
- ・ WG として基礎教育・児童労働に対する提言文書を作成。文書作成プロセスにおいて WG 内で議論を重ね、児童労働問題の課題について他の NGO と問題意識を共有することができた。また海外のパートナー団体や専門家からの意見を反映させることもできた。提言書は日本語版は外務省をはじめ政府関係者に配布され、英語版も作成されている(G8 サミット NGO フォーラムのウェブサイトからダウンロード可能)。

6) アドボカシーに関する講演、パネリスト派遣

- ・ NGO 全般やアドボカシーについての講演依頼が 3 件あった(FASID、日本 NPO センター、JANIC の研修やシンポジウムへの依頼)。

ネットワーク構築・協働事業

新たな活動として、2008年G8サミットNGOフォーラムにおいて、貧困・開発ユニットのサブリーダーとしてフォーラム全体で実施するキャンペーンの企画運営に中心に関わることができた。その他ネットワークにおける活動も例年通り継続した。国際ネットワークとの連携や活動への参加が課題となっている。

1) 児童労働ネットワーク事務局運営

- ・ 事務局として、学習会の定期開催、「児童労働反対世界デー・キャンペーン」の企画実施、ネットワーク会員管理・対応、会計管理、ウェブやメーリングリスト等による広報・情報発信、運営委員会の開催、調整等を行った。
- ・ 学習会やキャンペーン等、活動が定着し、会員やキャンペーン参加団体も少しずつ増えているなどネットワークとしての発展は歓迎できるが、特にキャンペーンの対応など事務局としてのACEへの負担が増えているので対応が必要である。またネットワークの2007-08年度の活動にG8やTICADにあわせたアドボカシー活動も想定されているため、ACEとしてのアドボカシーといかに連動させていけるかが課題

2) NGO - 労働組合国際協働フォーラムへの参加

- ・ 合同企画委員として委員会に出席したほか、児童労働グループの事務局として、メーデー中央大会への出展、総評会館での写真展、6月の児童労働反対世界デー・イベント、ブックレットの配布と講師派遣の広報、グループミーティングの調整業務を行った。

3) 教育協力NGOネットワーク(JNNE)への参加

- ・ 政策提言グループのメンバーとして今後3年間のアドボカシー活動計画立案に携わった。

4) 2008年G8サミットNGOフォーラム、GCAP

- ・ 基礎教育・児童労働ワーキンググループの活動に加え、貧困・開発ユニットのサブリーダーとして岩附がキャンペーンを担当することになった。以後、キャンペーン意見交換会の開催、キャンペーン検討委員会の立ち上げ、検討委

員会の開催、世話人会や貧困開発ユニット全体会に出席した。

- ・ ほっとけない世界のまずしさの海外ネットワークであるGCAPの関連で10月のGCAP国際会議の出席、電話会議出席、年賀状アクションはがき案作成、国会議事堂前でのアクションなどに参加した。

5) グローバルマーチ・日本コーディネーター

- ・ グローバルマーチへの会員としての登録手続きをし、回答を待っている状態だが、事務局からの連絡がなく、またこちらからも確認の手続きをとっていないため、特に進展はしなかった。Child Workers in Asiaなど、他の海外ネットワークへの参加も含め、来年度再度検討する。

国際協力事業

外務省委嘱の NGO 専門調査員が中心となり、国際協力事業の基盤強化のための事業ガイドラインの作成を行った(2008年3月完成予定)。ガイドライン作成プロセスにおいて、事業実施の優先分野について議論し、啓発、提言活動とも連動させていくことを想定し、西アフリカのカカオ産業、インドのコットン産業に焦点を当てていくことに決定した。今後の新規事業立案にむけて現地調査を実施できたことが2007年度の新たな展開であった。インドの「子どもにやさしい村」プロジェクトの運営管理体制強化にも取り組むことができた。詳細は以下の通り。

1) インド「子どもにやさしい村」プロジェクト継続支援

- ・ 2006年11月より開始した、ラジャスタン州バマンバス村とクンダラヤ村の2つの村でのプロジェクトが2007年12月に終了した。バマンバス村の未就学児童26人および中途退学児童38人、クンダラヤ村の未就学児童37人が学校に通えるようになった。
- ・ 2007年9月3日に上記2村を訪問し、村の子どもや住民との話し合いなどを行ってプロジェクトの進捗状況を確認した。現地パートナー団体と協議し、今後は住民組織の自立的な活動の促進とプロジェクト効果の維持を図るため、2008年度は今後約1年間のフォローアップを行う。

2) インド「子どもにやさしい村」プロジェクト新規支援

- ・ 今後のプロジェクトのあり方について、現地パートナー団体と協議を行った結果、従来は1年間だったプロジェクトの1サイクルを1年半に延長し、その後必ず1年間のフォローアップを行っていく方針を確認した。フォローアップの実施により、子どもたちが児童労働に戻ることをないよう就学を徹底させ、住民の自立を促進するといった効果をより高めることを目指す。一つの村を支援するための費用が増加するため、今後は支援者拡大などより積極的な資金調達を行う。
- ・ ラジャスタン州チタウリ村を訪問しニーズ調査を行った。家庭訪問や住民との話し合いなど

を行い、特に女兒が放牧などに従事していること、教員が不足しており学校が十分機能せず、子どもの就学が十分達成できていないことを確認した。プロジェクト実施資金は、フットサル収益金(355,149円)とチャイルドフレンドリー基金から充当する。

- ・ フェリシモ基金の支援(寄付金70万円)が追加で決定したことから、さらにもう一つの村(スラジプラ村)でのプロジェクト実施が決定した。
- ・ 2007年度事業として、新たにプロジェクト開始予定であったが、現地パートナー団体との調整により12月末までの送金ができなかったため、現地への送金は2008年1月の予定。プロジェクトの終了は2009年6月の予定。

3) インド「子どもにやさしい村」プロジェクト終了後モニタリング

- ・ 2005-06年にプロジェクトを実施したウツル・プラデシュ州ガンゴール村を訪問し、プロジェクト後の状況についてフォローアップ調査を行った。プロジェクト終了後も、子ども村議会や青年グループなど住民組織の活動が継続されており、児童労働の予防をはじめ、教育やその他の村の状況改善が進んでいることを確認した。さらに村での取りくみが周辺の村にとってモデルとなり、他の村のリーダーによる視察や、他の村の子ども村議会議員との交流が行われるなどの波及効果が生まれていることがわかった。

4) 国際協力事業の基盤強化

- ・ 国際協力事業の実施体制強化を図るため、国際協力事業に関するガイドラインの作成に取り組んだ。ガイドラインには、国際協力事業の優先分野、支援対象事業の選択基準、事業の実施・モニタリング・評価・フォローアップにおける業務の手順や留意点等について明記した。同時に現地パートナー団体と交わす契約書や、プロポーザル、事業報告書の雛形なども整備した(2008年3月完成予定)。
- ・ ガイドラインの作成に当たっては、アドバイザーの協力を得て組織内ミーティング(5回)を

行ったほか、他団体への訪問によるヒアリングや、人道支援におけるプロテクション研究会への出席(4回)を通じて情報収集を行った。その他参考資料(主に Winrock International、草の根無償資金協力、JICA 草の根技術協力、上記訪問団体の関連資料)の調査等を行った。ガイドラインは今後事業を行う際に活用し、より実用的なものとなるよう見直しを図る。

- ・ ガイドラインの作成にあわせ、今後の国際協力事業の重点分野について議論した結果、国内のアドボカシー活動との連動を想定し、農業の児童労働に重点を置き、西アフリカのカカオ産業とインドのコットン産業について、将来的な現地プロジェクトの実施を見据えて情報収集を行っていくことを決定した。その他重点分野として、奴隷・債務労働、人身売買・子ども買春を優先的に支援していく方針を確認した。

5) ガーナ・カカオ産業に関する現地調査

- ・ 2月に NGO 専門調査員の調査として、水寄がガーナでの現地調査を実施。日本大使館、JICA ガーナ事務所、政府関連機関、ILO、労働組合等を訪問し、情報収集、意見交換を行ったほか、STCP が実施する農民支援のプロジェクトを視察した。
- ・ 調査の結果は、3月の総会に合わせて実施した「チョコレートと児童労働」の学習会で発表し、外務省にも報告書を提出した。
- ・ カカオの児童労働については、国際協力事業の方針を検討した結果、今後現地への支援活動実施を見据えて準備を進めていくことが決定した。JICA 地球ひろばが実施する「NGO 組織力アップ! 研修」プロジェクトマネジメントコースの一環として、2008年度2月に岩附と白木が再度現地調査を行う予定。

6) インド・コットン産業に関する現地調査

- ・ アンドラ・プラデシュ州で長年児童労働と教育に取り組んでいる現地 NGO、MV Foundation (MVF)の協力を得て、児童労働の実態調査を行った。農場で働く子ども、雇用主、住民グル

ープからの聞き取りを通じて、児童労働の状況や取り組みについて情報収集した。また MVF の事務所や活動地を訪問し、スタッフと事業ニーズや立案の可能性について協議した。今後も専門家や他団体の協力を得ながら情報収集を行い、現地支援の実施へ向けて調査を継続していく。

- ・ 現地調査の実施のための助成金を申請したが、二次選考に通過しなかったため、今後継続して資金調達も同時に行っていく。

7) 外務省、JICA との協議会への参加

- ・ JICA 連携事業検討会(7/23、9/26、12/4)、外務省定期協議会(5/28、7/17、10/31)に出席し、今後国際協力事業に活用できる可能性のある助成制度の動向について情報収集を行い、また参加団体との関係構築を行った。

10 周年事業

トークイベントの開催、および理事3名による著書「わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて」の出版により、児童労働、団体活動の周知を行った。支援者の拡大には十分につなげることができなかつたため、2008年度も本の販売強化、10周年を記念した講演会の実施などを計画していく。

1) 10周年記念イベントの実施

- ・ 団体設立10周年と本の出版を記念して、トークイベントを開催した。トークイベントは約100名程の参加があり、池田香代子氏(『世界がもし100人の村だったら』再話者)、林達雄氏(『特活』ほっとけない世界のまずしさ代表理事)をゲストに迎え、顧問の長坂寿久氏(拓殖大学教授)にモデレーターをお願いした。10周年応援カンパを募り、企業協賛2件を得た。

2) 本の出版

- ・ 合同出版より提案を受け、理事の岩附、白木、水寄の3名で原稿を共同で執筆、2007年11月に出版した(初版4000部)。印税分は全額ACEに寄付される。見込まれる印税相当分本書を、著者割引額で買い入れたため、在庫を販売分がACEの収入となる。

2. 事業別評価

理事会にて、各事業の活動実績について評価を行った。

- <5段階評価基準>
- 1 計画を大幅に下回る実施しかできなかった
 - 2 計画を部分的にしか実施できなかった
 - 3 計画通り実施できた
 - 4 計画以上の実施ができた/計画通り実施でき、かつ波及効果があった
 - 5 計画以上の実施ができ、かつ波及効果があった

事業	内容	実施日時	実施場所	従事者の数	参加者および受益対象者	評価
啓発事業	1. 講師派遣	2月から12月まで 20回	都内および全国各地	7人	講演・ワークショップ参加者約 1,800人	5
	2. 教材の開発・普及	1月から11月まで 24件	都内および全国各地	2人	教材利用者 約900人	
	3. 資料室・ライブラリの運営	通年	法人 事務所	3人	資料室・ライブラリ 利用者約20人	
	4. 学習会・セミナーの開催	1月から6月まで 4回	東京都、 大阪府	4人	参加者約130人	
	5. チャリティフットサル大会の開催	6月24日および6 月～7月、11～12 月まで 14回	埼玉県、神奈 川県、栃木 県、兵庫県、 大阪府	21人	参加148チーム 約1480人	
	6. キャンペーンの実施	4月～6月に 2件	東京都、 大阪府	4人	キャンペーン 参加者約3,500人	
	7. 各種イベントへの出展・参加・協力	2、3、4、9、10、11 月に計8回	東京都、 神奈川県	15人	イベント参加者 のべ5,000人	
	8. スタディツアーの実施	8/31～9/7	インド	2人	ツアー参加者 15人	
	9. ウェブサイトの運営	通年	法人 事務所	5人	ウェブサイト 訪問者	
	10. メールマガジンの発行	1月から12月まで 24回	法人 事務所	6人	メールマガジン 購読者2,437人	
	11. メディアとの連携	通年	東京都内	2人	一般市民	
政策提言 事業	1. アドボカシー戦略の策定	1月から3月まで	法人 事務所	5人	-	4
	2. 企業と児童労働に関する調査・情報収集・情報提供	通年	法人 事務所	3人	企業担当者、講演参加者、 その他読者	
	3. 児童労働予防・改善を目的としたCSR促進のためのセミナー実施	7月、9月	東京都内	5人	セミナー参加者82人、 研修参加者23人	
	4. 児童労働改善の成功事例紹介	実施は2008年度	東京都内	1人	-	
	5. 日本政府の援助政策・施策への提言	7月～	東京都内	3人	フォーラム参加団体	
	6. アドボカシーに関する講演、パネリスト	11-12月に 3回	東京都、 大阪府	1人	講演参加者	

事業	内容	実施日時	実施場所	従事者の数	参加者および 受益対象者	評価
ネットワーク構築・協働事業	1. 児童労働ネットワーク	通年	東京都内	2人	ネットワークに参加する22の団体・個人	4
	2. NGO- 労組国際協働フォーラム	通年	東京都内	2人	フォーラム参加団体25団体	
	3. 教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)	通年	東京都内	1人	JNNE 参加団体約30団体	
	4. 2008年 G8 サミット NGO フォーラム	通年	東京都内	1人	フォーラム参加団体100団体	
	5. グローバルマーチ・日本コーディネーター	特になし	法人事務所	1人	グローバルマーチ加盟団体	
国際協力事業	1. インド「子どもにやさしい村」プロジェクト継続支援	2006年11月～2007年11月	インド ラジャスタン州 パマンバス村、クンダラヤ村	2人	支援対象村の未就学児童63人、中途退学児童38人	5
	2. インド「子どもにやさしい村」プロジェクト新規支援(事前調査)	9月2日 (プロジェクト実施は2008年1月～2009年6月)	インド ラジャスタン州 チタウリ村、スラジブラ村	2名	支援対象村の未就学児童91名	
	3. インド「子どもにやさしい村」プロジェクト終了後モニタリング	8月29日 (フォローアップ調査)	インド ウッタール・プラデシュ州ガンゴール村	1名	支援対象村の子どもおよび住民	
	4. 国際協力事業の基盤強化	5月～12月	法人事務所および東京都内	4人	-	
	5. ガーナ・カカオ産産業調査	2月	ガーナ	1人	-	
	6. インド・コットン産産業に関する現地調査	2007年9月5～9日	インド アンドラプラデシュ州	1人	-	
	7. 外務省、JICA との協議会参加	通年	東京都内	1人	協議会参加者	
10周年事業	1. 10周年記念イベントの実施	11月25日	東京都	20人	参加者約100人	4
	2. 本の出版	1月～11月	法人事務所および全国	3人	読者	
総合評価						4

参考 2007 年度 講師・パネリスト派遣実績

	日時	タイトル	主催	会場	参加人数	担当者	事業分類
1	2/14(水)	子どもの権利を守る～児童労働から考える	ルーテル学院大学	ルーテル学院大学 (東京都三鷹市)	40	白木、三上	啓発
2	2/16(金)	NTT 労働組合神奈川総支部研修「児童労働とは」	NTT 労働組合神奈川総支部	大磯プリンスホテル (神奈川県中郡大磯町)	70	岩附	啓発
3	2/20(火)	「米国 NGO・政府の児童労働へのアプローチ」	児童労働ネットワーク第 15 回学習会	JICA 地球ひろば (東京都渋谷区)	50	岩附	政策提言
4	3/11(日)	「ガーナのカカオ産業における児童労働」学習会	国際子ども支援団体「H&H」(Heart and Hand)	イオン宮崎ショッピングセンター2 階ホール(宮崎県宮崎市)	100	水寄	啓発
5	3/15(木)	地球市民講座 2007「なぜ働く！アジアの子どもたち」「感じてみよう、働く子どもの気持ち」ワークショップ	東京都千代田区国際平和・男女平等 人権課	千代田区役所(東京都千代田区)	34	白木	啓発
6	3/27(木)	グローバル・ヴィレッジ ワークショップ	グローバル・ヴィレッジ	ピーブルツリー(東京都渋谷区)	20	水寄	啓発
7	4/14(土)	EFA リレートーク「学校に行けないのは、働いているからだだったんだ。感じてみよう働く子どもの気持ち」ワークショップ開催	「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2007	JICA 地球ひろば・市民のひろば(東京都渋谷区)	20	岩附、石塚	啓発
8	4/20(金)	カカオと児童労働	国際食品労連日本加盟労組連絡協議会	味の素労働組合会議室(東京都中央区)	10	岩附、水寄	政策提言
9	5/ 9(水)	CSR 活動勉強会	GRI 日本フォーラム	あいおい損害保険(株)新宿ビル会議室(東京都新宿区)	50	岩附	政策提言
10	5/12(土)	世界フェアトレード・デー2007 トークイベント「児童労働 - 世界で起きていること、わたしたちにできること」	グローバルヴィレッジ/株式会社フェアトレードカンパニー	東京丸ビル7 階ホール(東京都千代田区)	400	岩附	啓発
11	6/15(金)	「学校に行けず働く子どもたち」	東京都葛飾区立本田中学校	東京都葛飾区立本田中学校(東京都葛飾区)	375	岩附	啓発
12	6/22(金)	「はたらく子どもの映した世界～児童労働ってなんだろう？～」企画展 Stolen Childhoods 上映会	(財)自治体国際化協会(CLAIR)市民国際プラザ	市民国際プラザ(東京都千代田区)	10	白木	啓発
13	6/26(火)	横浜市高齢者福祉大学一般講座「サッカーボールから考える児童労働～わたしたちには何ができるか」	横浜市泉区老人クラブ連合会	横浜市泉区老人クラブ(神奈川県横浜市)	60	白木	啓発
14	7/13(金)	「グローバル化と児童労働～わたしたちには何ができるか」	(特活)アイセック・ジャパン立教大学委員会	立教大学(東京都池袋)	60	白木	啓発
15	8/25(土)	ワークショップ「サッカーボールと児童労働」	(財)日本ユニセフ協会神奈川支部	横浜市港北公会堂(神奈川県横浜市)	50	大津留、三上	啓発
16	9/26(水)	シンポジウム「世界の子どもたちによりよい保健と教育を!!」 = 保健と教育分野の MDGs 達成に向けたユニセフと NGO のパートナーシップ構築をめざして	外務省(NGO 研究会:保健分野における NGO と国際機関の連携)	UN ハウス5F コミッティールーム(東京都渋谷区)	50	岩附	政策提言

	日時	タイトル	主催	会場	参加人数	担当者	事業分類
17	9/28(金)	「児童労働ってなに？～基礎編」	NTT 労働組合長野県グループ連絡協議会	長野ホテル犀北館(長野県長野市)	25	白木	啓発
18	10/6(土)	「児童労働を知っていますか？」	NTT 労働組合青森県グループ連絡協議会	青森県観光物産館「アスパム」2階小ホール(青森県青森市)	25	白木	啓発
19	11/3(祝)	第41回中央大学白門祭 国際協力講演会～フェアトレードと私たち「フェアトレードと児童労働」	中央大学 FLP 国際協力林ゼミナール	中央大学多摩キャンパス(東京都八王子市)	60	白木	啓発
20	11/16(金)	「アジア・アフリカの子どもたちについて学ぶ会」	女子学院中学・高等学校 宗教委員会	女子学院中学・高等学校(東京都千代田区)	30	白木	啓発
21	11/22(木)	平成19年度 NGO 研究会「ネットワーク NGO のあり方」シンポジウム「北と南の市民社会ネットワークは何ができるか」パネリスト	外務省(事務局:(特活)TICAD 市民社会フォーラム)	国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟国際会議室(東京都渋谷区)	50	岩附	政策提言
22	12/2(日)	NPO メッセ in 関西 2007 分科会3 アドボカシー「市民によるアドボカシーに NPO が果たせる役割とは」パネリスト	近畿労働金庫、(特活)日本 NPO センター、NPO メッセ in 関西 2007 実行委員会	大阪経済大学(大阪府大阪市)	50	岩附	政策提言
23	12/5(水)	「平和学」講義 「チョコレートから考える児童労働～わたしたちができること」	明星大学人文学部国際コミュニケーション学科	明星大学日野校(東京都日野市)	45	白木	啓発
24	12/13(木)	世界の児童労働問題	甲南大学経済学会	甲南大学(兵庫県神戸市)	100	岩附	啓発
25	12/14(金)	JANIC 設立 20 周年記念講演会	国際協力 NGO センター (JANIC)	東京ウィメンズプラザ(東京都渋谷区)	100	岩附	政策提言
26	12/21(金)	「私の体験したテーマのある旅」報告会	全国大学生生活協同組合連合会旅行センター	大学生協会館(東京都杉並区)	30	白木	啓発
	合計				2097		

参考 2007 年度 参加・協カイベント

	開催日	イベント名	主催	会場
1	2/17(土)	朗読劇とトークセッションでつづる「子どもの未来を買わないで～ティムからのメッセージ」	てのひら～人身売買に立ち向かう会	横浜開港記念会館(神奈川県横浜市)
2	3/3(土)	Blooming Peace (A Fundraising Event for Children on Our Planet)	STUDIO 凜	STUDIO 凜(東京都国立市)
3	3/5(月)-16(金)	東京都千代田区写真展「児童労働と国際協力活動」	千代田区	千代田区役所1階ロビー(東京都千代田区)
4	4/29(土)	第78回メーデー中央大会	第78回メーデー中央実行委員会(連合)	代々木公園(東京都渋谷区)
5	6/11(月)-22(金)	「はたらき子どもの映した世界～児童労働ってなんだろう？～」企画展	(財)自治体国際化協会(CLAIR)	市民国際プラザ(東京都千代田区)
6	9/9(土)	NGO まつり in 上野 2007	NGO まつり 2007 実行委員会	丸幸ビル(東京都台東区)
7	9/15(土)	「児童労働撲滅キャンペーン in 神奈川 2007」写真パネル展	NTT 労働組合神奈川総支部	神奈川県横浜市
8	10/7(土)-8(日)	グローバルフェスタ JAPAN 2007	グローバルフェスタ JAPAN 2007 実行委員会	日比谷公園(東京都千代田区)

参考 2007 年度 ACE 主催学習会・セミナー実績

	日程	タイトル	場所	参加者	事業分類
1	1/21(日)	学習会「カンボジアにおける児童労働」	丸幸ビル 2F 会議室(東京都台東区)	30	啓発
2	3/10(土)	学習会「チョコレートと児童労働」	UI ゼンセン同盟会議室(東京都千代田区)	44	啓発
3	6/8(金)	ワークショップ「表現アートで考える、働く子どもの権利」(アムネスティ日本子どもネットワークとの共催)	JICA 地球ひろば・市民のひろば(東京都渋谷区)	30	啓発
4	6/9(土)	児童労働セミナー in 大阪「CSR とチョコレート産業における児童労働」(国際子ども権利センター、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとの共催)	PiaNPO(大阪府大阪市)	34	啓発
5	6/10(日)	「児童労働反対世界デー・ウォーク in 関西」(国際子ども権利センター、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとの共催)	御堂筋周辺(大阪府大阪市)	30	啓発
6	6/19(火)	アフリカに取り組む NGO との懇談会	JICA 地球ひろば・セミナールーム(東京都渋谷区)	15	啓発
7	7/ 4(水)	「CSR 調達と SA8000 セミナー」(CSO ネットワークとの共催)	田町ビジネスセンター(東京都港区)	82	政策提言
8	9/10(月) ~ 14(金)	「SA8000 社会監査研修」(CSO ネットワークとの共催)	都市センターホテル(東京都千代田区)	20	政策提言
9	11/25(日)	ACE10 周年 & 出版記念 トークイベント & パーティ「世界がもし 100 人の村だったら ほっとけない! 世界の子ども」	JICA 地球ひろば	100	10周年
	合計			283	

参考 チャリティフットサル大会実績 <JFC スポーツバンガード株式会社運営フットサル場実施分>

<春大会> 5 会場で実施 寄付金額 147,000 円

日時	場所	チーム数	時間	募集カテゴリー
6/24(日)	SHOOT フットサルポイント茅ヶ崎	9 チーム	10:00 ~ 15:00	MIX
7/8(日)	フットサルポイント SALU つかしん	10 チーム	13:00 ~ 17:00	超ウルトラスーパービギナー
7/15(日)	フットサルポイント SALU 相模原	5 チーム	13:00 ~ 16:00	MIX
7/16(月祝)	フットサルポイント SALU 姫路	16 チーム	9:00 ~ 13:15	MIX
7/22(日)	フットサルポイント SALU 和光成増	9 チーム	8:30 ~ 12:30	エンジョイ

<秋大会> 8 会場で実施 寄付金額 268,000 円 (2008 年収入見込み)

日時	場所	チーム数	募集カテゴリー
11/11	SALU 池袋	3 チーム	
11/18	SALU 宇都宮	5 チーム	ミックス
11/18	SALU 和光成増	10 チーム	ウルトラスーパービギナー
11/23	SALU 姫路	10 チーム	エンジョイ
11/25	SALU 相模原	7 チーム	ウルトラスーパービギナー
11/25	SHOOT 茅ヶ崎	8 チーム	ミックス
12/2	J-FOOT 浦和美園	14 チーム	ウルトラピギナース
12/2	SALU 川口	10 チーム	ウルトラスーパービギナー

3. 組織体制・財政基盤強化についての報告

組織体制、財政基盤強化にあたって、計画に基づき以下の活動を実施した。詳細は以下の通り。

活動	実績	成果と課題
1. 会員・寄付者拡大	<p>下記のとおり、定期的に会員・サポーター・募金キャンペーンを実施した。結果は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 会員キャンペーン(2006年11月～2007年3月) 新規会員 25人(募集25人) 2) Visionサポーター募集(3月) 新規 3件 3) マンスリーサポーターキャンペーン(5月～7月) 新規サポーター4人(募集30人) 4) 会員キャンペーン(2007年10月～2008年2月) 新規会員12人(第1期:10月～12月) 5) 年末寄付プロモーション(1500部DM発送) 一般寄付10万、お年玉寄付5000円(1件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年度末から実施した会員キャンペーンでは目標人数を達成することができた。2007年度10月から実施した会員キャンペーンでも、10周年事業などとあわせて順調に会員を増やすことができた。 ・Visionサポーター、マンスリーサポーターについては目標を達成できていないので、広報など改善と強化を検討する必要がある ・引き続き、会員の継続を維持しつつ、新規会員を増やし、会費と寄付でスタッフ1名の人件費がカバーできるようになることを目指していく。 ・またフットサル場とのコラボレーションや国際協力事業の広報を強化し、寄付を増やしていくことも課題。
2. 資金調達のための新規プロジェクト立ち上げ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大分県での焼酎プロジェクトはボランティアの協力を得て実施を試みたが、費用対効果の目処がたたないため断念した。 2) ダウンロード募金箱の導入を検討したが、試作にとどまった。 3) 年末に書き損じはがきの回収の呼びかけをダイレクトメールで広報した。 4) 「ありがとう寄付」「おとしだま募金」の新しい募金をはじめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれのプロジェクトも現時点では新規の資金調達に結びついていない。 ・寄付をする機会・動機提供は増えたが、既存の寄付会費などもあるため、散発的に寄付依頼を出すのではなく、全体的な資金調達方針、戦略に沿った計画を作る必要がある。 ・新規で始めたものについては定着させていくにはある一定程度の時間が必要なため、今後継続しながら改善、強化を試みていく。
3. 人材の確保および能力強化	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2006年度NGO専門調査員(2006年5月～2007年3月/政策提言担当) 2) 2007年度NGO専門調査員(2007年5月～2008年3月/国際協力担当) 3) インターン2名(CSR担当1名、児童労働ネットワーク担当1名) 4) SA8000社会監査研修(9月) 5) JICA組織力アップ研修(10月) 6) 国際協力NGO次世代リーダー育成研修(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年度外務省委嘱NGO専門調査員により、ガーナの予備調査を実施、報告会を開催することができた。 ・2007年度外務省委嘱NGO専門調査員により、国際協力事業の基盤強化のためのガイドライン作成および、インド支援事業のモニタリングを強化することができた。 ・CSR担当インターンの増員により、CSR事業を拡充することができた ・SA8000社会監査研修を受講し、研修修了資格を取得することができた。今後、企業を対象としたコンサルティング業務の可能性について検討していく。 ・JICA組織力アップ研修、プロジェクトマネジメントコースに参加し、プロジェクト管理について学ぶとともに、2008年2月のガーナ現地調査に向け、準備を行うことができた。 ・次世代リーダー育成研修に参加し、2008年度人件費助成の申請を行った。(2008年2月に不採用通知あり)

4 . 2007 年度決算報告

2007年度 特定非営利活動に係る収支決算書(案)
2007年1月1日から12月31日まで

単位(円)

科目	2007予算	2007決算案	達成	備考
収入の部				
1. 会費収入	1,390,000	1,442,000	104%	
正会員	720,000	738,000	103%	
賛助会員・学生正会員	420,000	414,000	99%	
法人賛助会員	250,000	290,000	116%	
2. 寄附金収入	4,710,000	3,357,583	71%	
一般寄付	500,000	754,165	151%	
CFV寄付	1,850,000	1,129,918	61%	
Visionサポーター	1,000,000	300,000	30%	
マンスリーサポーター	360,000	173,500	48%	
連合愛のカンパ	1,000,000	1,000,000	100%	
3. 事業収入	5,383,000	6,000,288	111%	
啓発事業	2,643,000	3,390,013	128%	
政策提言事業	200,000	1,092,332	546%	
国際協力事業	0	0		
ネットワーク構築・協働事業	440,000	490,000	111%	
10周年記念事業	2,100,000	1,027,943	49%	
4. 民間助成金収入	3,000,000	1,898,000	63%	
ゆめ応援ファンド	978,000	448,000	46%	政策提言事業「CSRプロジェクト」
中央ろうきん助成	955,000	950,000	99%	啓発事業「チョコレートプロジェクト」
庭野平和財団	1,067,000	500,000	47%	政策提言事業「児童労働改善の成功事例紹介」2008年度実施分
5. 委託事業収入	250,000	250,000	100%	千代田区委託事業
6. その他収入	40,300	7,900	20%	利息等
当期収入合計(A)	14,773,300	12,955,771	88%	
前年度からの繰入金	4,435,716	4,435,716	100%	
収入合計(B)	19,209,016	17,391,487	91%	
支出の部				
1. 事業費	8,497,700	5,623,768	66%	
啓発事業	3,042,000	3,125,843	103%	
政策提言事業	2,795,700	1,321,932	47%	
ネットワーク構築・協働	660,000	523,790	79%	
国際協力	990,000	306,726	31%	予定していたプロジェクト費の支出が2008年1月に遅延したため
10周年記念事業	1,010,000	345,477	34%	
2. 委託事業支出		97,885		予算時は啓発事業支出に含めて計上
3. 管理費	4,680,400	5,785,016	124%	
役員報酬	0	600,000		
給料手当	1,630,000	1,630,480	100%	
家賃	378,000	523,484	138%	新事務所への移転に伴う家賃の前払いと増額のため
什器備品費	100,000	312,192	312%	新事務所への移転に伴い備品の購入が増えたため
光熱水費	96,000	73,565	77%	
消耗品費	130,000	260,170	200%	
通信運搬費	481,200	569,643	118%	
印刷製本費	640,600	799,492	125%	パンフレットの増刷の回数が計画より増えた
租税公課	0	3,703		
旅費交通費	250,000	258,970	104%	
会費	50,000	55,000	110%	
支払い手数料	30,000	315,040	1050%	新事務所への移転に伴う手数料
自動引落し経費	75,600	87,524	116%	
法定福利費	49,000	44,525	91%	
資金調達	770,000	55,315	7%	
図書研究費		800		
保険料		17,000		
雑費		178,113		
3. 予備費	150,000	0	0%	
当期支出合計(C)	13,328,100	11,506,669	86%	
当期収支差額(A)-(C)	1,445,200	1,449,102	100%	
前年度からの繰入金	4,435,716	4,435,716	100%	
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,880,916	5,884,818	152%	
チャイルドフレンドリー基金への積立金	-2,000,000		0%	次期予算を検討した上、積立金の積立を見送った

参考 委託事業収支

I. 収入の部 委託事業収入	250,000
II. 支出の部	
1. 事業費支出	97,885
2. 管理費支出	112,847
収支差額	39,268

2007年度 会計財産目録

2007年12月31日現在

特定非営利活動法人 A C E

(単位：円)

科 目	金 額		
資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
郵便振替	1,015,363		
普通預金 三菱東京UFJ銀行国立支店	52,970		
普通預金 三菱東京UFJ銀行上野中央支店	3,009,425		
普通預金 三菱東京UFJ銀行上野支店	362,366		
普通預金 三菱東京UFJ銀行上野支店	1,228,734		
その他流動資産			
未収金	31,170		
前払費用	14,625		
流 動 資 産 合 計		5,714,653	
2 固定資産			
敷金	203,200		
固 定 資 産 合 計		203,200	
資 産 合 計			5,917,853
負債の部			
1 流動負債			
預り金	26,645		
仮受金	6,390		
流 動 負 債 合 計		33,035	
固 定 負 債 合 計		33,035	
負 債 合 計			33,035
正 味 財 産			5,884,818

2007年度 会計貸借対照表

2007年12月31日現在

特定非営利活動法人ACE

(単位：円)

科 目	金 額	
資産の部		
1 流動資産		
郵便振替	1,015,363	
普通預金	4,653,495	
2 その他流動資産		
未収金	31,170	
前払費用	14,625	
流動資産合計		5,714,653
3 固定資産		
敷金	203,200	
固定資産合計		5,917,853
資産合計		5,917,853
負債の部		
1 流動負債		
預り金	26,645	
仮受金	6,390	
流動負債合計		33,035
負債合計		33,035
正味財産の部		
前期繰越正味財産		4,435,716
当期正味財産増減額		1,449,102
正味財産合計		5,884,818
負債及び正味財産合計		5,917,853

監査報告書

自2007年1月1日 至2007年12月31日 会計年度について
収入収支ともに詳細に検討、監査した結果、いずれも適法かつ
正当と認めました。

2008年3月5日

特定非営利活動法人 ACE

監事 奥津雷三 

5 . 2007 年度役員一覧

理事

理事： 岩附 由香 (代表)
理事： 小林 裕 (副代表)
理事： 白木 朋子 (事務局長)
理事： 水寄 僚子
理事： 餅田 美奈子

監事： 奥津 雷三

顧問 (理事会に対し、下記の方々より、事業、組織運営上のアドバイスをいただきました。)

甲斐田 万智子 (特活)国際子ども権利センター代表理事
郷野 晶子 UI ゼンセン同盟国際局局長
田部 昇 明治学院大学名誉教授
寺中 誠 (社)アムネスティ・インターナショナル日本 事務局長
中嶋 滋 ILO 理事(労働側)
長坂 寿久 拓殖大学国際学部教授
初岡 晶一郎 姫路獨協大学名誉教授
古澤 準一 マックスバリュ東北(株)、人事総務本部長、前イオン(株)、SA8000PT リーダー
堀内 光子 文京学院大学客員教授、児童労働ネットワーク代表、前 ILO 駐日代表
(敬称略、五十音順)

6 . 2007 年度 主な助成団体、企業・団体からの寄付・協賛

下記のみなさまからご支援をいただきました。あたたかいご支援をいただきありがとうございました。

助成金

- ・ 財団法人庭野平和財団 活動助成
- ・ 中央ろうきん助成プログラム 第2種(チャレンジ)助成:事業展開資金)
- ・ 日本労働組合総連合会(連合) 愛のカンパ
- ・ ボランティア・市民活動支援総合基金「ゆめ応援ファンド」(単年度助成)
- ・

企業、団体からの寄付、協賛

- ・ 株式会社イミオ
- ・ 株式会社クレアン
- ・ NTT コムウェア労働組合幕張分会
- ・ NTT 労働組合コムウェア本部
- ・ NTT コムウェア株式会社
- ・ 大宮アルディージャ
- ・ JFC スポーツバンガード株式会社
- ・ 株式会社フェアトレードカンパニー
- ・ フェリシモ「mama.f スマイル-基金」
- ・ 三井住友海上火災株式会社
- ・ 三井住友海上スマイルハートクラブ
- ・ 株式会社リードオフジャパン